早期診断、早期(低侵襲)治療
プロジェクト 関連病院として セントマーガレット病院 参加

膵がん ― 沈黙の臓器 ― 初期の自覚症状がない病気の早期発見

Q. どんな先生が推進しているの？

A. 日本医科大学千葉北総病院(印西市)の
『がん診療センター長 中村 慶春先生』

日本医科大学千葉北総病院 がん診療センター長 中村 慶春副院長は、前任地の茨城県神栖市で同様の膵がん早期診断、早期治療プロジェクトを同地域の急性期基幹病院である神栖済生会病院においても4年前から開始し、地域のかかりつけ医療機関の先生方と共に現在も継続しております。その努力が実り、少しずつ早い段階での膵がんの患者さんが発見され、早期の治療へと結びつける事が出来るようになりました。この経験を生かし、当地(印旛医療圏、八千代市等)においても同プロジェクトを推進し、地域における膵がんの治療成績の向上に努めて参ります。

高度最新医療を担う 日本医科大学千葉北総病院

第二回

精緻な低侵襲手術を組み入れた集学的治療により、消化器がんの治療成績を向上させる

日本医科大学千葉北総病院
副院長　外科、消化器外科部長、がん診療センター長　中村　慶春

はじめに

外科医は昔から患者さんに対する尊敬や信頼の念が強く、低侵襲手術を常に心掛けて参りました。急性虫垂炎（俗称では「もちろう」）や鼠径ヘルニア（脱腸）などの良性疾患において、切創（きず）を皮膚の割線に沿わせ小さくしようとする方針は、患者さんの入院期間の短縮などの恩恵が見いだされ、低侵襲手術が広く受け入れられるようになりました。

外科医に共通した思い、やり方あるいは習慣のようなものです。それは、できるだけ傷を小さくすることです。そのために、手術を行う前に、患者さんの状態を十分に理解することです。

外科医は